

折口信夫博士写真資料の電子情報化

資料研究の概要と成果

本事業は、本学文学部の付置研究所である折口博士記念古代研究所(以下、「折口古代研」と略記する)所蔵の写真画像資料を対象としたもので、平成12年度から基礎的作業を実施してきた。

折口古代研には、折口の蔵書である折口記念文庫、自筆あるいは他の者の浄書などによる著述資料、書簡資料、折口自身の撮影写真も含む画像資料、折口の収集品や遺品などの有形資料、折口研究書誌など合計で約2万8,500点の資料が所蔵されている。

本事業で対象となるのは、このうちの画像資料であり、この中には折口自身の撮影による民俗写真資料、折口が収集した歌舞伎関係画像資料、芸能関係画像資料、各地景観等絵葉書資料、さらに折口にかかる人物写真(年譜写真)資料などがある。画像資料は全体を一括して「折口写真コレクション」と通称しており、民俗写真は約2,250点、人物写真(年譜写真)は約1,100点、演劇写真は約2,700点ある。このほかに各地の絵葉書などもあるが、事業対象としたのは、演劇写真のうちの歌舞伎関係画像と人物写真(年譜写真)であり、このうち歌舞伎関係画像については14・15年度に絵葉書・プロマイドのすべてである2,547点のデジタル化を完了した。人物写真については、撮影年次の判明しているものの整理が完了した。

歌舞伎関係画像資料は、絵葉書が2,374点、プロマイドが173点であり、これらのなかで作成年次の判明しているものが139点ある。それは明治43年から昭和8年までであり、これら絵葉書・プロマイドが明治末から戦前までのものであることをうかがわせている。また、折口自身が役者の台詞などを書き込んだものが163点ある。

日本で絵葉書が作成されるようになったのは明治33年(1900)からであり、大正期のものを大半としながら明治末から昭和初期までの歌舞伎絵葉書が、これだけまとまっているのは稀であり、日本の歌舞伎史、近代演劇史研究にとっては重要な資料といえることができる。

平成12年度からの研究活動・デジタル化をもとに、平成15年度には國學院大學学術フロンティア事業のホームページに「折口信夫写真資料・歌舞伎絵葉書資料 Photographic materials collected by ORIKUCHI Shinobu KABUKI Picture Postcard Collection」と題して資料紹介の頁を掲載した。

歌舞伎関係画像資料の概要について、点数の多い役者名リスト、点数の多い発行所リストなどを示しておく次のようになる。

コレクション点数の多い役者名/最終名跡(上位12名)

役者名(最終名跡)	役者名(以前)	枚数
15代目市村羽左衛門		146
5代目中村歌右衛門	中村芝翫	140(15)
6代目尾上梅幸		121
7代目澤村宗十郎	澤村訥升	81(6)
7代目松本幸四郎	市川高麗蔵	78(23)
初代中村吉右衛門		75

役者名（最終名跡）	役者名（以前）	枚数
11代目片岡仁左衛門		74
7代目市川中車	市川八百蔵	74（6）
13代目守田勘弥		50
初代中村鴈治郎		47
2代目実川延若	実川延二郎	42（31）
6代目大谷友右衛門	中村東蔵	38（34）

（ ）内は以前の役者名名義の枚数

コレクション点数の多い発行所とその裏面（宛名面）のデザイン

発行元	言語	主な切手絵	枚数	備考
銀座上方屋	英 + 仏 / 仏	大入 / 扇 大入	1579	富士山の切手絵も見られる
東京銀座上方屋本店	仏	星の縁飾り	44	
銀座上方屋平井	仏	大入	14	
TONBOYA	仏 / 仏・英・独・伊・露	蜻蛉 /	125	年代が古いものと思われる
		無		
東京本郷矢吹高尚堂	仏	無	91	帝劇で上演
新富町森山	仏 / 独・仏・伊・英・露	無	39	
演芸写真館	無	大入	15	
松竹演芸写真部	英	松竹	10	
松竹写真部	英	無	10	
演芸書報社	仏	大入 + 燭台	6	
福山島田製美堂	仏	薔薇	4	中村成太郎
大阪中村屋	無	巣箱	3	

歌舞伎関係画像のうちの大半を占める絵葉書は、半数以上が銀座上方屋のものであり、「葉書」の表示言語を見ていくと、上記のように英語、仏語、独語のほかイタリア語、ロシア語などがある。国際性が意識されていたのがわかる。絵葉書には画像化された歌舞伎の上演劇場名も記されており、歌舞伎座・帝国劇場などの大歌舞伎が演じられる劇場から、本郷座・御国座などの小芝居の劇場まで、幅広く見られるのが特長である。

歌舞伎関係画像資料はデジタル化が完了したのと同時に、データベース化も進めており、1点ごとに表面（画像面）にある種類 / 題目 / 演目・場面名 / 役名 / 役者名 / 最終名跡 / 劇場名 / 人数 / カラー

or モノクロ / 日付 / 自筆書き込み、裏（宛名面）にある発行元 / 印字色 / 言語 / 切手絵 / 自筆書き込みの一覧化を行った。

デジタル化ならびに資料研究にあたっては、従来、資料がB4厚紙を台紙として糊付けされていたのを台紙から剥がし、Lシートホルダーに1点ずつ収納して劣化の進行を止めるようにした。Lシートホルダーというのは、保存用ポリエステルフィルム2枚の間に無酸ガス吸着紙とアルカリ供給紙を挟んだもので、2枚のポリエステルフィルムは2面が熱厚着され、ホルダー状になっている。この中の真ん中にアルカリ供給紙を入れ、その両面に無酸ガス吸着紙を入れて、絵葉書などの画像資料は1つのホルダーに2点ずつ入れることができる。Lシートホルダーに資料を収納し、さらに専用の保存箱に入れている。ポリエステルフィルムの厚さは50ミクロンのものを使用している。この製品は株式会社大入製のものであり、ホルダーはA5サイズの特注品である。

なお、歌舞伎関係画像資料については立命館大学アトリサーチセンターとの共同研究を進めており、デジタル化資料は立命館大学学術フロンティア推進研究プロジェクト「京都演劇・映像デジタルアーカイブプロジェクト」（研究代表者：赤間亮 文学部教授）と資料・情報の共有化をはかった。

資料デジタル化の手順

歌舞伎関係画像資料のデジタル化については、次の手順で作業を進めた。

1. 資料番号付与

資料の大半は、画用紙状の台紙に糊付けされて、一部折口の自筆があるものに関してのみ、裏面が確認できるような配慮がなされている。台紙には時々与えられた番号があった。だが、枝番、欠番、同じフィルムからの焼き付けで重複しているものに番号を与えていない等の問題点があることから、以後使用するのに不適切と判断し、ナンバリングで資料番号に該当するような一資料一番号を原則とする番号を新たに与えた。

歌舞伎関係画像資料には、デジタル化の過程で1点ごとに「os-e (番号)」を与えた。これは「折口信夫 演劇」の意である記号と資料番号である4桁の数字で、同じフィルムからの焼き付けなど、明らかに複写であるものには枝番をあたえることにした。この作業によって歌舞伎関係画像資料は当初把握されていた2,202点ではなく、2,547点のコレクションであることが確認できた。

2. デジタル化作業

研究用、データベース用として200dpi、TIFF形式のファイルを作成した。その後、データ交換用として、TIFFファイルを元に、JPGファイルを作成した。また、大きさがまちまちである各資料の縦横比を固定し、プリントサイズを長辺14センチメートルに統一した（不定形の写真などは、元のサイズを知るため操作しなかったものもある）。歌舞伎関係画像資料については、まず当初、確認されていた2,202点、ついで追加分の順で2,547点すべての作業を終了させた。

作業過程で生じた問題点について

1. 台紙に貼りつけられた資料の管理

かつて一般的であった、紙資料をでんぷん糊で台紙に貼りつける資料整理方法は、今日では資料保存の観点から、問題があることが明らかになっている。本事業で対象とした資料の中にも、裏面に塗られた糊が表面ににじみ出て、しみ状に変色しているものが確認できた。裏面に印刷されていることの多い発行所などの情報が確認できないという問題もある旨、立命館大学アート・リサーチセンターより指摘をうけた。裏面数箇所が糊付けされている場合が多いことから、慎重に資料を台紙からはがしていった。

自筆がみられるため糊付けをしていない資料であっても、四隅を固定する枠を台紙に設け、取り外して裏面確認できるようにしているため、度重なる取り外しによる損傷が生じている場合がある。これらについても適切な管理を検討しなければならない。

2. 台帳管理方法

資料から台紙を除去した後の資料整理方法の大きな課題であるが、まずは酸性化をくい止めることが重要で、上記のLシートホルダーに収納していった。ホルダーに収納して、資料番号をホルダーに記載して方法をとっている。ホルダーであるので資料を取り出すのは容易であるが、しかし脱落する可能性があり、扱いは慎重に行う必要がある。後の混乱を防ぐためには資料に直接資料番号を記載したほうがよいのであるが、これは資料汚損にもなり、現状ではホルダー収納が最善といえる。

今後の課題

折口信夫によって収集された歌舞伎関係画像資料は、上記のようにデジタル化が完了し、さらにデータベース化がほぼ完了したのであり、今後は資料情報とデジタル画像を合体させたデータベースの構築が課題となる。文字による資料情報と画像とが同時に検索できるシステムの構築であり、これによって Web 上でのデータベース検索もできるようになる。

(小川直之)



(左図) 帝国劇場「戻り橋(一条戻り橋の場)」
 渡邊綱(松本幸四郎)と娘小百合(悪鬼)(尾上梅幸)
 (大正14年6月上演)
 (銀座上方屋製絵八ガキ)



(右図)「忠臣蔵三段目」
 師直(市川団蔵)と判官(尾上梅幸)
 (絵八ガキ)



歌舞伎座「紅葉狩」侍女碓氷(中村兎太郎)
 (銀座上方屋製絵八ガキ)



歌舞伎座「女暫」息女巴御前(中村歌右衛門)
 (銀座上方屋製絵八ガキ)

写真図版 1



帝国劇場「心中天網島」紙屋治兵衛（澤村宗十郎）
（銀座上方屋製絵八ガキ）
（書き込みは折口信夫による）



帝国劇場「祇園祭礼信仰記」
此下藤吉（中村吉右衛門）
（銀座上方屋製絵八ガキ）



帝国劇場「身替座禅」山陰右京（尾上菊五郎）
（銀座上方屋製絵八ガキ）
（書き込みは折口信夫による）



帝国劇場自由劇
ナスチャ（市川松蔦）と男爵（石川寿美蔵）
（銀座上方屋製絵八ガキ）

写真図版 2